radii polynomial approach における無限次元ガウスの消去法

(指導教員 関根 晃汰 准教授) 関根研究室 2131701 齋藤 悠希

1 はじめに

定義 2.0【 σ -加法族】 Ω の部分集合族 $\mathcal F$ が以下の性質を満たすとき , Ω を σ -加法族という .

- (1) $\Omega \in \mathcal{F}$
- $(2) \ A \in \mathcal{F} \Longrightarrow A^c \in \mathcal{F}$
- (3) $A_1, A_2, \ldots \in \mathcal{F}$ に対して以下のことが成り立つ $(\sigma$ -加法性,完全加法性,加算加法性):

$$\bigcup_{i=1}^{\infty} A_i \in \mathcal{F} \tag{1}$$

 $A \subset \Omega$ に「確率」を定めたい.矛盾なく「確率」が定まる集合をあらかじめ決めておきたい. それが σ -加法族である. Ω と $\mathcal F$ の組 $(\Omega,\mathcal F)$ を**可測空間**という.また, $\mathcal F$ の元を**可測集合** (または事象, Event) という.

定義 2.1【確率測度】 (Ω,\mathcal{F}) を可測空間とする. \mathcal{F} 上の関数 P が次を満たすとき,これを**確率測度**という.

- $0 \le P(A) \le 1 \ (\forall A \in \mathcal{F})$
- $P(\Omega) = 1$
- ・ $A_1,A_2,...$ \in \mathcal{F} が $A_i\cap A_j=\emptyset$ $(\forall i\neq j)$ の とき,次が成り立つ(σ -加法性,完全加法性):

$$P\left(\bigcup_{i=1}^{\infty} A_i\right) = \sum_{i=1}^{\infty} P(A_i) \tag{2}$$

P が (Ω,\mathcal{F}) の確率測度のとき , (Ω,\mathcal{F},P) を**確率空間**という .

例 2.2【一定時間に到着するメールの数】 $\Omega = \{0, 1, 2, ...\}$ で ,

$$P(A) = \sum_{\omega \in A} \frac{\lambda^{\omega}}{\omega!} e^{-\lambda}$$
 (3)

とすると,これも確率測度になっている(Aは強度 λ の Poisson 過程に従うという).

 Ω が加算無限の場合, $\mathcal{F}=2^\Omega$ を考えておけば問題ない. $0\leq h(\omega)\leq 1, \sum_{\omega\in\Omega}h(\omega)=1$ となるような h を用いて $P(A)=\sum_{\omega\in A}h(\omega)$ とおけば, P は確率測度となる. この $h(\omega)$ のことを,確率質量関数という.